信用を失うだけです。

そこで考えた。若い先生たちの方が適当な研究方面はこれらの人に委せ，自分以外にはあまり取り上げられそうもない方面に研究をしぼったらどうであろうかと。そこで次に具体的にこの方面のことを考えてみると，あまりにも多いのに驚きました。戦後の日本では地理学者の数が激増したのに，これはどうしたことでしょうか。つまり多くの人々が同じようなことばかりをやっているので，その反面では空白な部分が方々に出てきてしまっていることを意味します。これは日本の地理学の不健全さを示すものでもあります。たとえば日本の都市化・工業化・社会・経済などの現象を地理学の立場から取り上げることは，たくさんの人がやっていますが，その反面ではアジア，ことに中国の地理，日本人の地理知識や地理思想の発達，地図の発達などに関する研究は，ほとんどとまっています。だからこういう空白を埋めようと頑張っていますが，ともすれば1人ではどうにもならないとの絶望感に陥りそうです。現在の私の最大の願いは，日本の地理学界の人々が，もっと分野の広い，しかも近視眼的ではない基本的研究に目ざめて，健全な学究的遺産を次の代，次の代へと伝えて行くことです。

コルネリア・ファン・ナイエンローデという女性

別　技　篤　彦

ある日私はジャカルタの古本屋で一冊の黄褐色の本を手にいれた。題して〝東インド会社時代の女性たち〟という。オランダの東インド会社が花やかなりし17，18世紀ごろ当時のバタビア（今のジャカルタ）の社交界で活躍し，いろんな意味で話題をのこした女性たちの伝記である。読んでいくうちにその1人にコルネリア・ファン・ナイエンローデの名が現われてきたのに私は驚ろかされた。彼女は日本の平戸の半田五右衛門の義理の娘で日蘭混血の女性であり，今も平戸の半田家に残る〝じゃがたら文〟の筆者だからであった。

彼女は元和～寛永にわたって駐在した平戸のオランダ商館長ナイエンローデを父とし，日本人（のち半田五右衛門の後妻）を母として生れた。父の死後妹とともにバタビアへ渡り，そこで長じてオランダ生れの商務官ピーテル・クノルと結婚し，たくさんの子供を生んだのである。コルネリアはたのもしい女性で一方に父の頑固な性質をうけたが，他方母からは美しいものを愛する東洋的な心を与えられた。大へんな激情家で自分の所信は容易にまげなかったらしい。コルネリアが一度怒るとその口からは激しい日本語が立てつづけに飛び出し，家中のものが震えあがったという。しかしその一面では彼女はどこまでも日本を忘れなかった。平戸にいる生母をたえず慕い，音信を欠かさなかったことは彼女の〝じゃがたら文〟でも明らかである。そして船便のあるごとに異国のめ

ずらしい品々を生母や義父の半田五右衛門や，乳母にまでことづけて送っている。彼女が洋装をして子供の1人を抱いている姿を木牌に刻ませて平戸へ送ったものは今も同地に残っている。また手紙の中で日本から〝蒔絵の香盤やつげのくし〟，〝本紫にそめた白ちりめん〟などを送ってもらうよう依頼しているところにも日本の心を忘れないゆかしさが偲ばれる。

コルネリアの夫のクノルは1672（寛文12）年に亡くなって彼女は寡婦となったが，10年後彼女は裁判官のヤン・ビッテルと再婚した。ところがまもなくコルネリアの激情が爆発したのである。彼女は愛していた先夫の名前（Knol，— オランダ語でかぶらの意味）にちなんで家の中の調度品にすべて美しいかぶらをデザインした紋章をつけていた。新らしい夫のビッテルはこれが気にくわず，全部それを削り取れと命じたことから口論が始まった。双方ともにゆずらず，二人のけんかは当時のバタビア上流社会の話の種だったという。コルネリアは離婚訴訟を起したがそれがきまらないうち，ビッテルは本国へ転任することになった。当時の法律ではコルネリアもこれに同行しなければならない。彼女は涙をのんで悄然とオランダ船に乗り，オランダへ向った。時に1687年である。船上でもコルネリアは先夫の子供たちと一室を占領し，ビッテルをよせつけなかったという。こうして彼女は母の国日本を再び見る機会もなく遠い北欧の土となったようだ。しかし日本人の血をまじえた女性でヨーロッパに住んだものとしてはおそらくコルネリアが最初の人ではないだろうか。

二　つ　の　旅

有　末　武　夫

その　1

昨年の11月から今年の2月にかけて，私の生活はあわただしい旅の日程に追いかけまわされていた。高速道路の経済効果を予測するという仕事で，調査地域が南は熊本から北は盛岡にいたる広い範囲にわたり，11の地区について実態調査を必要とするものであった。連絡係というような役柄から，いやでも西に東にと飛び回らねばならない。カレンダーと調査計画をにらみ合わせながら日程を決め，時刻表を繰り予定をたてる。現地の人の都合を聞き，予定は変更される。調査対象の役所や事業所に連絡をし，切符や宿の予約をする。一つの旅行が終らないうちに次の旅行の手筈を決めなければならない。希望の切符が入手できない場合もあれば，宿が満員の場合もある。列車が遅れてこちらが予定の行動をとれないこともあれば，先方の都合で待ちぼうけをくわされることもあった。しかし広島を振り出しに，熊本・久留米・山口・三原・岡山・津山などの西日本と，盛岡・福島・新潟・宇都宮などの東日本各地を入れかわり立ちかわり回ってみて，地域による人間生活の